

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 6 月 2 日

学 長 殿

所属部局・職名 福島大学大学院 共生システム
理工学研究科 2 年 産業システム分野 技術経営
戦略研究室(石岡 賢研究室)

申 請 者 名 木元 敦

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ <u>学会参加</u>) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	日本経営工学会 2017 年春季大会
事業実施期間	平成 29 年 5 月 26 ~ 平成 29 年 5 月 27 日
成果の概要	<p>平成 29 年 5 月 26 ~ 5 月 27 日に京都府龍谷大学深草キャンパスにて開催された公益社団法人日本経営工学会 2017 年春季大会において、研究発表を行った。 発表論文の枚数は 2 ページです。 発表のタイトルは、"Brand Innovation Virtuous Cycle における Value Based Pricing の活用"である。近年の市場の問題点として、成熟化やコモディティ化、ライフサイクルの短縮化などが挙げられる。これらの問題から、企業が長期的競争優位を確立することが困難になっている。こうした状況においてイノベーションを実現するために、新たな概念である Brand Innovation Virtuous Cycle を活用する。しかし、このサイクルを実行する過程では、ブランドイメージの低下、ブランドの希薄化という問題が生じる。本研究では、こうした問題を解決する手法として、価格設定方法の 1 つである Value Based Pricing を適用し Brand Innovation Virtuous Cycle を効果的に運用する新たな手法の提示を行った。具体的には、Brand Innovation Virtuous Cycle を構成する 3 つのステップである技術ブランドの構築、技術ブランドの拡張、CRM において、Value Based Pricing の重要な能力である Planning、Implementation、Leverage をそれぞれ対応させ、技術ブランドの価値を消費者に効果的に発信することで、Brand Innovation Virtuous Cycle の問題点を解決し、近年の市場に対応したイノベーション実現手法となることを示した。 以上のことから、今回の学会発表は、経営工学への学術的な貢献をしたと考えられる。また研究内容の発展につながる貴重な意見をいただくことができ、本学会への参加と発表は、有意義なものだった。</p>